

トークイベント「エネルギーも自給！新しい農業のカタチ」
- 映画『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』小原監督と考える -

パルシステム連合会 環境政策推進室

本企画の広報に関しましては、ホームページ「お知らせ」ページを予定通り 2 月 2 日に公開し、申し込み受付を開始いたしました。今後、メルマガ配信のほか、SNS への投稿や役職員や生消協などへの呼びかけを予定しています。

≫HP お知らせページ：<https://information.pal-system.co.jp/environment/260202-talkingevent/>

登壇者との打ち合わせを踏まえ反映させた企画概要を、改めて共有いたします。

なお、環境委員の皆さまへの ZOOM コードご案内は、開催 3 日前を目安にメール配信いたします。お申し込みはご不要です。また、もし当日会場で参加したいというご希望があれば、午後開催「止めよう原発 3.7 全国集会（代々木公園）」へのご参加と一緒に、事前に集約させていただきます。改めて当室からご案内いたしますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

企画概要

（１）趣旨

今年の 3 月 11 日で、原発事故発生から 15 年。パルシステムは「福島を忘れない」を掲げ、脱原発に向けたアクションと、被災者や避難者への支援を継続して進めてきました。しかし、第 7 次エネルギー基本計画での原発政策の転換による原発再稼働が進み、福島第一原発事故の風化が強く懸念されます。

一方被災地である福島では、原発事故を機に、使用するエネルギーを見直し、地域づくりも含めた新たな取り組みで農業を盛り上げようとする動きが根付き始めており、その奮闘の様子はドキュメンタリー映画『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』の中で描かれています。

本編を製作された小原浩靖監督をお招きし、エネルギーも自給する新しい農業のカタチを追求し頑張っておられる産直産地の生産者とともに、エネルギーと農業について考えたいと思い、本企画を組み立てました。

（２）開催概要

【日時】3 月 7 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分 ※午後は「さようなら原発集会」（会場：代々木公園）

【会場】パルシステム連合会 東新宿事務所 2 階会議室

【開催方法】オンライン開催（後日、アーカイブ視聴を公開します）

【対象】パルシステム組合員、役職員 ※一般参加も可能

【目的】

- ・「再生可能エネルギーの売電収入」と「農業」の両方を生業とする新しいやり方や、「いのち」や「食べもの」との循環サイクルからみる、ソーラーシェアリングの可能性について共有し、映画自主上映のきっかけとする。
- ・原発事故の影響で今も放射能測定を余儀なくされている現状を知り、放射能による被害は今もこれからも続く現実を考える。

【登壇者】

≫小原 浩靖さん（映画監督『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』）

≫伊藤 大輔さん（株式会社ジェイラップ 代表取締役）

≫川崎 彩子さん（原子力資料情報室）

【プログラム案】

《全体司会》事務局

時間	配分	内容
10:30～10:35	5	オープニング
10:35～10:55	20	■伊藤代表 ご講演 「人もエネルギーも“活かされる” 新しい農業～」(仮題)
10:55～11:55	60	■登壇者によるテーマトーク

		小原監督×伊藤代表×川崎彩子さん 《進行》事務局 ※トークのテーマは、以下予定しております。なお、今後の登壇者との打ち合わせの中で、変更する可能性もあります。 ・前作「原発をとめた裁判長」以降の、原発関連の情勢の変化について ・15年たっても、放射性物質の測定検査をしている実態 ・映画サブタイトル「たべもの、でんき、笑顔も自給」に込めた思い
11:55～12:00	5	映画の自主上映会の案内、クロージング

(3) 登壇者紹介（一部、更新情報あり）

≫小原浩靖 監督



1964年大阪生まれ。TV-CMを中心に700本以上の映像広告を演出。2020年『日本人の忘れもの フィリピンと中国の残留邦人』で映画初監督。第26回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞、第38回日本映画復興賞奨励賞を受賞。2022年公開の『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』は第12回江古田映画祭グランプリを受賞。2025年『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』を公開。

≫伊藤 大輔 様（株式会社ジェイラップ 代表取締役）



明日の農業の種を蒔く「農業集団」株式会社ジェイラップ代表取締役。地元高校を卒業後、単身中国へ留学。帰国後の2004年、株式会社ジェイラップ入社。農業試験場で研修を受けながら稲作農業に従事する。生産、加工、流通の現場責任者を経て2020年に代表取締役就任。農村の高齢化が加速を続け“今まで通り”が通用しなくなる中、「農業が元気なら人は生きていける」をスローガンに新たな産地形成の仕組みづくりに奮闘中。

株式会社ジェイラップ（福島県須賀川市泉田字作田 18-2）

稲田稲作研究会のお米を販売している販売元。稲の栽培方法やその乾燥方法、貯蔵方法にこだわりを持つ。1993年には太陽熱乾燥とモミの状態での貯蔵できる設備を導入し、いつまでも申請に保存できる体制を整える。そのような中、3.11の原発事故によって、放射能物質は稲田稲作研究会の田んぼを襲ったが、セシウムの特性を冷静に調査研究し、田んぼの土壌を「天地返し」し放射能の除去に成功。それ以降、エネルギーの自給に着目し、先進的に田んぼのソーラーシェアリングを導入している。食料の自給、エネルギーの自給、さらに排熱の利用によるハウス栽培の計画、農業廃材の燃料化計画などを掲げ、将来的には廃棄物ゼロ、完全自給を目指しています。

(参考：<https://www.oisixradaichi.co.jp/sustainability/withord/energy/energy09/>)

≫川崎 彩子さん（原子力資料情報室）



北海道出身、東京在住の25歳。2021年、学生時にFridays For Future Tokyoのメンバーとなり、温暖化対策強化と気候正義を求めて現在も活動している。若者気候訴訟の原告。2025年4月より、原子力資料情報室のスタッフ。

以上